

佐賀の未来をつくるインフラ整備

～地域をつなぐ、未来をまもる～

佐賀県は、県内全域にまんべんなく人が暮らす住みやすい県で、それぞれの地域に豊かな自然や文化、産業が息づいています。

県では、こうした地域と地域をつなぎ、人やモノの流れを生み出す幹線道路の整備や港湾、空港など、さまざまなインフラ整備を進めています。

そして、災害から生命や暮らしを守るため、内水対策プロジェクト「プロジェクトIF」に取り組み、城原川ダムや六角川などの治水対策を進めています。

今回ご紹介しているのは、県が進めるインフラ整備の一部です。これからも、県内各地のインフラ整備を着実に進めながら、佐賀県の未来をつくっていきます。

佐賀県はほどよく人が分散している県

人口密度が高い

人口全国42位
人口密度全国16位

市町毎の人口の偏りが小さい

市町村ごとの人口の偏りを表す
ジニ係数が日本一低い



道路が“つながる”と、こんなに変わる！

POINT
1

移動時間がもっと短く

- ・通勤や休日のお出かけの時間が短縮される
- ・病気や火事などの緊急時、救急車や消防車がより早く到着できる

POINT
2

産業や観光がもっと元気に

- ・生鮮品を新鮮なまま、遠くまで運ぶことができる
- ・観光客の県内周遊が進む

POINT
3

暮らしがもっと安全・安心に

- ・渋滞が緩和され、事故が減少する
- ・大雨や地震などの災害時、迅速に避難できる

未来へつなぐ「Tゾーン」の整備

佐賀県の東西・南北をつなぐ「有明海沿岸道路」と「佐賀唐津道路」の整備を進めています。2つの道路がつながることで、県内各地の人やモノの移動がさらに便利に。佐賀県医療センター好生館や九州佐賀国際空港へのアクセスも、よりスムーズになります。



こどもたちの夢をのせて整備を進めています！

福富鹿島道路 I期が令和8年8月に着工

有明海沿岸道路の福富ICと国道207号までの約10kmをつなぎます。



地元のこどもたちも一緒に着工を祝いました！

大川佐賀道路 (仮)川副ICが令和8年度中に開通

有明海沿岸道路の諸富ICから(仮)川副ICまでの約1kmが開通します。



筑後エリアから九州佐賀国際空港へのアクセスがますます便利に！

ポテンシャルを活かす 県東部の道路整備

九州の交通の要衝である鳥栖市。高速道路などへのアクセスの良さを活かした道路整備を進めています。小郡鳥栖南スマートインターチェンジの開通などにより利用者が高速道路と一般道路に分散され、交通混雑が緩和されるなど、物流の効率化が進み、地域産業のさらなる活性化にもつながっています。これらの取り組みの積み重ねにより、工業地の地価上昇率が全国47都道府県で“全国1位！”となるなど、佐賀県の価値を高めています。

10年連続上昇中
工業地の地価上昇率
47都道府県中 **全国1位**

※出典：国土交通省「令和8年地価公示」



令和12年度から企業進出が予定されている産業用地「サザン鳥栖クロスパーク」

道路と産業の基盤を整え、企業が集まる地域へ

物流需要が高い九州のクロスポイントで企業進出の受け皿となる産業用地の確保を進めています。あわせて、戦略的な企業誘致を進め、地域経済の活性化と雇用創出を実現しています。未来に向けて、さらなる企業誘致に取り組んでいきます。

鳥栖市に進出した企業の一例



城原川の治水対策を 国とともに進めています

地域を守るための決断

大雨による洪水から、下流域で暮らす人々の生命と財産を守るため、国が進める城原川ダム（神埼市）の建設。今から55年前、調査に着手されました。

その後、環境に配慮したダム計画への見直しや政策転換などにより建設をめぐる議論は長期にわたりました。水没地域に暮らす方は、その間、生活や住居移転への不安、故郷を離れることの寂しさなど、さまざまな想いを抱えながら過ごされました。そして、生活の場を移すという苦渋の決断をいただきました。



城原川ダム計画地の周辺地区

想いに寄り添いながら、生活再建を支援します

水没地域のみなさんの決断、そしてお一人お一人の想いに寄り添いながら、国や神埼市とともに、地域のみなさんの移転や生活再建に向けた支援に全力で取り組んでいます。さらに県では、地域のみなさんの想いや故郷の風景を映像で記録に残し、未来を担う世代へしっかりと引き継いでいきます。